

試験研究評価シート（事後）

評価の種類	事後評価	担当名	製薬衛生担当
課題名 (研究テーマ)	ドクダミ茶の有効成分分析と製茶法の検討	研究者名	(正) 小原 佑介 (副)
研究期間	平成30～令和元年度	研究に要した時間 (概数)	平成30年度：140日 令和元年度：110日
予算額 (千円)	平成30年度：507千円 令和元年度：504千円	予算種類	国補 ・ 県単
必要性	<p>1. 背景 ドクダミにはフラボノイド配糖体や無機物質が含まれ、昔から民間薬として広く用いられてきた。花期の地上部を乾燥させたものは日本薬局方に生薬「ジュウヤク」として収載され、利尿や消炎作用のある医薬品として利用されてきたほか、花期以外のドクダミは、主に健康茶としても利用されてきた。</p> <p>2. 現状 ドクダミは、花期収穫後にも収穫することができ、徳島県立農林水産総合技術支援センターでは、年3回安定して収穫することに成功した。しかし、花期以外の成分分析等は実施されておらず、品質確保のための成分分析が望まれている。また、当センターが実施している薬草教室においても、参加者からドクダミ茶の作り方に関する質問が多く、県民の関心も高い。 花期のドクダミを用いた製茶法の検討報告があるが、成分分析はされていない。また、花期収穫後のドクダミを用いた製茶法の報告事例はない。</p> <p>3. 必要性 花期収穫後のドクダミについて、より品質の高い製茶法を検討することは、商業的利用価値を高めることにつながる。また、効果的なドクダミ茶の飲み方を県民に発信することによる健康増進を啓発できる。</p>		
目標	花期収穫後のドクダミについて、有効成分量が高い健康茶としてのドクダミ茶の製茶法を検討する。得られた知見を、農林部局、県内企業、団体及び薬草教室等を通じて県民に還元し、地域経済活性及び健康増進に寄与する。		
研究内容	ドクダミ茶中の主な有効成分としてフラボノイド配糖体及びカリウム等の無機物質をターゲットとして、花期収穫後のドクダミについて有効成分量を分析するとともに、最適な製茶法(乾燥条件、抽出条件等)を検討する。		
手法	<ul style="list-style-type: none"> ・フラボノイド配糖体、無機物質の測定条件の検討 ・ドクダミ茶の抽出条件の違いによる溶出量比較 ・ドクダミの乾燥条件の違いによる成分量比較 ・花期と花期収穫後のドクダミ茶の成分量比較 ・収穫時期、乾燥条件及び成分量と嗜好性の関連 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・フラボノイド配糖体は高速液体クロマトグラフによって、無機物質はイオンクロマトグラフによって測定可能な分析条件を検証することができた。 ・30分間煮沸した場合の溶出量と比較して、100℃の熱湯に数分間浸漬させるだけでも80%以上の抽出が認められた。 ・乾燥方法によるフラボノイド配糖体含有量に大きな差は見られなかった。 ・ドクダミ茶の有効成分含有量は、収穫時期による差は認められなかったが、フラボノイド配糖体は、日照時間の影響を受けることが示唆された。 ・収穫時期及び乾燥条件と嗜好性との関連が強いことが示唆された。なお、成分量との関連は認められなかった。 		
追跡評価	無（その理由：本研究結果の活用として、農福連携等を考えているが、その場合の評価項目としては商業的な面が大きく、当センターで継続して追跡する必要はないと考えられるため。）		